



毎年少しずつ進化していくこの大会は、給水所や誘導箇所の「おもてなし」や「声かけ」が昨年よりも充実し、住民ボランティアや関係者の思いが伝わりランナーには大変好評でした。

大会本部の観光交流センターでは、スタート時は威勢よく、ゴールではランナーを迎える「じょんじょん太鼓」、花満開さんの実況中継、地元住民の声援等で盛り上がりました。また、ゴール後の振る舞いや出店も喜んでいただきました。

参加したランナーの方々からは、「予想以上の高低差に驚いたが、コースのいろんなところやゴール前での声援に気持ちよく完走できた」「地元の方々が一体となって前夜祭を楽しませてくれた」「みんなで踊った国賀どんと節が印象的」「島民の人柄、最高のバーベキューに感動した」など、たくさんのありがたい声をいただき、前夜祭・ハーフマラソンともに交流が図れたと思います。

ランナーに喜んでいただき終えられたのは、ご協力いただいた皆様の心を込めた前夜祭でのおもてなし、小雨の寒い中でのコース案内や声援、大会前の準備や片付けなど、多くの皆様にご協力いただいたおかげです。ありがとうございました。

西ノ島町・西ノ島ハーフマラソン実行委員会



直近のイベント 隠岐の4島を回って隠岐の良さを再発見しましょう！ ※変更する場合がありますのでご確認ください。

食の感謝祭	11月 5日（日）	海士町（隠岐神社）
蛇巻（ジャーマキ）	11月28日（火）	知夫村（各地区）

修学旅行生がやってきました！

今年も修学旅行生が西ノ島に来島しました。9月16日から1泊2日の日程で奈良県から1校（生徒30名）、26日から2泊3日の日程で兵庫県から1校（生徒46名）が訪れ、国賀観光や国賀浜から摩天崖までのトレッキング、魚釣り体験、マリンスポーツ体験などをして楽しみました。生徒たちは自然体験だけでなく、これらの体験でお世話になった地域の方との交流も深めました。

西ノ島には現在、近畿圏から平成32年度まで修学旅行の予約問合せが入っています。ピーク時と比べると、数は決して多くはないですが、都会では経験できない自然体験と温かい島の人たちとの交流が好評で、30年近く西ノ島で修学旅行が実施され続けています。諸先輩方が築き上げたこの流れがこの先も長く続くよう私たちも努力していきます。



▲修学旅行生の釣り体験の様子

西ノ島の資料館からお知らせ

別府港周辺の資料館、黒木御所の「碧風館」と「西ノ島ふるさと館」はH29年11月1日～H30年3月31日、閉館致しますので、ご注意ください。また来年のご来館、お待ちしております！



今年度も隠岐観光協会の国際観光グループが「外国人は怖くない！」の勉強会を開催します！

■日時：12月10日（日）14：00～16：00（予定）

■場所：別府港 島根県合同庁舎 会議室（予定）

■講師：アリス・ゴデンカー氏

（東京在住アメリカ人記者、山陰インバウンド機構アドバイザー）

■内容：アリスさんは県内各地で視察をして、その地域でのプレスツアー、

セミナー等を企画しています。昨年の秋、隠岐に訪れ、隠岐の大ファンになりました。

今回は隠岐の観光関係者に役立つ情報を伝え、これから西ノ島に訪れる観光客だけではなく自分自身のスキルアップのために、ぜひご参加ください！



発見！ 西ノ島の自然の魅力 Vol.22 『ジョウビタキの顔』

秋も深まってきた頃、民家の庭先や畑から「ヒッ、ヒッ、カッ、カッ」と特徴的な声が聞こえてきます。この声の主はジョウビタキ。秋になると北方の繁殖地から隠岐に飛来し、越冬する渡り鳥です。枝先や畑の柵の上など目立つところに止まっているので、肉眼でも比較的に見つけやすい野鳥です。

ジョウビタキを観察していると顔のまったく違う個体がいることに気づきます。顔が真っ黒で頭頂部の銀髪が目立つ個体と、頭も薄いベージュ色の個体です。実はこれはオスとメスの違いです。キジのように野鳥はオスとメスの色彩が全く違う種類が数多くみられます。ジョウビタキは越冬中、オスもメスも同じ行動をとるため、特にオスとメスの顔の違いが分かりやすい種類です。

ジョウビタキ、みなさんの庭にも飛来していませんか？（by. 江崎）



▲左：ジョウビタキ（オス）

右：ジョウビタキ（メス）